



お元気ですか！
志村 たかよしです

第834号 2017年4月9日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

市場問題プロジェクトチームが指摘

「豊洲で開場していたら営業不能に」

その場合、月平均441億円の損失と試算

3月29日、都の市場問題プロジェクトチームの第7回会合が都庁で開かれ、5月をめどに作成する報告書のとりまとめに向けた課題を確認しました。

小島座長は、豊洲新市場が昨年11月7日に予定通り開場していたら、今年1月の地下水モニタリングで環境基準を大幅に超える有害物質が検出されたことで市場は営業不能となる可能性があった。

その場合、月平均441億円の

損失が出ていたと指摘しました。

豊洲では市場会計が資金ショート

豊洲での営業は、新市場整備に5884億円も投資した上、管理費は築地より年間で約61億円増え、毎年約150億円の損失が累積するとともに、15年ごとの設備更新には200億円が必要になるなど多額の支出に圧迫され「市場会計は20年たたずに資金ショートする可能性がある」と指摘しました。

さらに、築地市場用地の売却額を4386億円と見込んでいることについて、「過大ではないか」と問題視しています。

小島座長は「年間総収益180億円の市場が豊洲市場に6000億円も投資した。民間だったら会社が持たない」と述べ、破綻を避けるためには

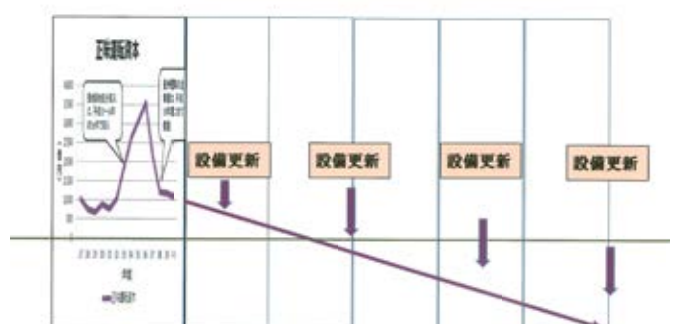
市場使用料の大幅値上げ

他市場の売却

税金投入

などが必要になるとしました。

豊洲市場の60年 設備更新時期ごとに多額の支出？



第7回市場問題プロジェクトチーム 資料より

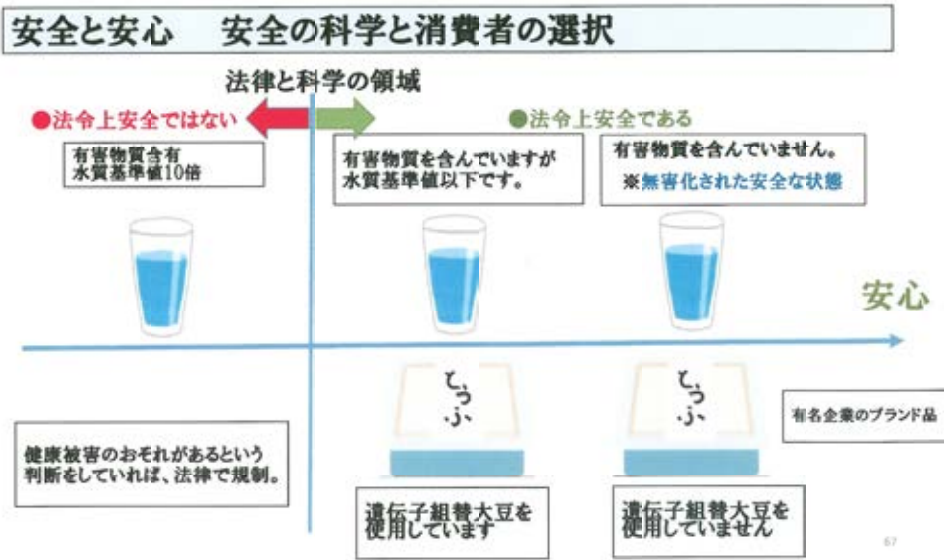
土壌汚染問題はすべて「未達成」

土壌汚染問題については、市場当局が11年2月23日の都議会で「無害化された安全な状態」とするために 土壌汚染対策を確実に 行う 東京ガス豊洲工場の操業由来の汚染物質をすべて除去、浄化する 地下水の汚染も環境基準以下にすると約束していたにもかかわらず、すべて達成されていないと指摘しました。

(裏面につづく)

「安全の科学と消費者の選択」を説明

会合では、「安全」と「安心」について「有害物質を含む水」と「遺伝子組替大豆を使用した豆腐」を例（左）に、「法令上安全でも消費者はどっちを選ぶだろうか」との説明がされました。



第7回市場問題プロジェクトチーム 資料より

桜の自然木を守った！



鳥が種を運んできたものと思われませんが、今年に入って東京都から、その木々を隅田川の堤防整備に合わせて

湊2丁目の湊公園に接する「管理用通路」には、実生した山桜や月桂樹などの木が約30年にわたって育っています（右写真）。



3月中に伐採するとの連絡があり、驚いた住民の方から相談が寄せられました。

私は、都と住民のみなさんとの話し合いに立ち会い、「強行しないこと」「住民の声をいかした整備を行うこと」を都に求めました。

3月末になって、都から「切らないことになった。今後については、また相談したい」との連絡が入りました。命拾いをした桜は、大振りて白い花を見事に咲かせ、小鳥も喜んでついばんでいました。



中央大橋と佃大橋の間にある湊公園に接して桜が咲いています = 中央大橋から撮影 4/4

「意見」要望など、お気軽に「連絡ください」(mayor@city.tama.lg.jp)